

ノボル鋼鉄が新中期計画

営業基盤を強化 機械加工投資の効果拡大

ノボル鋼鉄(社長・三上聡彦氏)は、今期(2016年6月期)から新3カ年中期計画をスタートした。前6月期の宮城テクニカルセンター開設、ノボルエンジニアリング設立で機械加工にかかわる投資は一段落したため、営業基盤の強化を主軸に据えて、投資効果の拡大を図る。設備投資では熱処理センター(静岡市駿河区)の真空熱処理炉更新などを検討。今期は品質管理向上のため、ものづくり補助金を活用した電子顕微鏡2台の増設を予定する。また加工品強化の一環で、7月に大阪出張所を大阪営業所に格上げし、事務所を大阪市から豊中市に移転した。

却、建屋の特別償却で3億1千万円の特別損失を計上した。一方、特別利益は2億3千万円。ノボルエンジニアリングの15年6月期決算(7カ月変則)は売上高2億1900万円、経常利益4100万円。

同社は10月に創業70周年を迎える大手特殊鋼問屋。前期は明星精工から事業譲り受け、14年12月に小型・精密の金属部品加工を手掛けるノボルエンジニアリング(本社・埼玉県さいたま市、社長・三上晃史ノボル鋼鉄

1部の機械加工体制を一段と強化した。

新中計では、これら投資の効果を上げることを含めて営業基盤の強化を図る。仙台支店、静岡支店を含め、人事交流も積極的に進める方針だ。

・三上晃史ノボル鋼鉄

16年6月期の経常利益

1億5千万円目指す

ノボル鋼鉄は16年6月期単独決算で売上高63億8千万円、経常利益1億5千万円を目指す。熱処理センターは、ものづくり補助金を活用した電子顕微鏡

15年6月期単独決算は売上高61億7200万円、前期比1.4%増、経常利益9500万円と同45.1%減、純利益1600万円で同90.8%減。宮城テクニカルセンターの機械加工設備、熱処理センターの真空洗浄機など新規設備の全額償

ノボル鋼鉄

ノボル鋼鉄(社長・三上聡彦氏)は、福利厚生の一環として、社員の頑張りに応えるポイント・サービスを活用し、「ノボルポイント制」(愛称「NOBOPO」と呼ぶ)を6月から導入している。このサービスは仕事に写真、福やプライベートにおけ

みんなの笑顔を広げます!

ノボル
ハッピーポイント
プログラム



NOBOPO

特典として、ポイント制を導入し、社員が頑張りを応援するサービスです。

「インセンティブ・ポイント制度」導入 社員の頑張りを応援

る社員の頑張りに応じてポイントを付与し、社員は獲得ポイントの商品やサービスと交換し、その対価をノボル鋼鉄がペネフィット・ワンに支払う仕組み。一例を挙げると、月間売上目標達成で5千、新規顧客獲得で3千、誕生日祝い1千、社内宴席幹事で1千、マイカー購入で3千などのポイントが付与され、獲得ポイント(1ポイントは1円)を約1万4千あるアイテムと交換する。